

平成24年度第1回平塚市文化振興委員会会議録

【日 時】平成24年8月3日（金）14:00～16:00

【会 場】平塚市民センター3階 中会議室

【出席者】

委員9名：石川幹夫委員、岩崎由紀子委員、牛田洋子委員、片山興大委員、小中山彰委員長、関本耕司委員、中野恵子委員、平岡喜久雄委員、平野恵美子副委員長

（欠席：森伸一委員）

事務局3名：文化・交流課長 課長代理 担当者

資料

- 1 平成24年度第1回次第
- 2 資料①平塚市文化振興委員会要綱
- 3 資料②平成24年度文化振興に係る会議等予定
- 4 資料③平成24年度基金活用事業予定
- 5 資料④平塚市文化振興指針の施策別取り組み状況

1. 開会

2. 委嘱状の交付

関本市民部長より委嘱状を交付

3. 委員長・副委員長の選任

互選により小中山委員長、平野副委員長を選任

4. 議題

(1) 平塚市文化振興委員会のあり方について

資料：①平塚市文化振興委員会要綱

②平成24年度文化振興に係る会議等予定

- ・ 条例等の設置根拠のない審議機関のあり方を全庁的に見直している。文化振興委員会は要綱による設置のため「委員会」ではなく「懇話会」への移行を準備中。
- ・ 平成24年度は移行期間であるため現行の要綱により運営することとして、委嘱を行った。平成25年度以降の形態については今年度中に委員会に報告する。
- ・ 今年度は会議を3回行う予定。次回は11月2日（金）午後2時から、市民センター中会議室。

質問・意見等

委員：庁内検討会議の構成は。

事務局：文化の定義は幅広く、平塚市文化振興指針で触れられている分野に関連する事業を所管する課ということで17課による組織になっている。教育委員会では社会教育部と関連が深く、美術館、博物館、図書館、中央公民館なども対象になっている。

(2) 平成24年度基金活用事業予定について

資料：③平成24年度基金活用事業予定

- ・ 平成24年3月の委員会で提示した内容で進めている。
- ・ これまでの会議では囲碁文化振興についてのPRを強化していくべきとの意見をいただいている。

質問・意見等

委員：平塚駅北口のモニターは故障中のままである。修理されないのか。また、囲碁のまちひらつか記念塔の

設置場所については不満がある。周辺のものとは一体感がなく、有効に活用されていないように感じる。
モニターを活用して囲碁盤を表示したり、囲碁のPRはできないのか。

事務局：囲碁のまちひらつか記念塔の隣のブロンズは七夕40周年記念の像。平塚駅北口ロータリーの改修の際、位置を調整した結果今のような配置になっている。モニターは電球が点滅して文字を流すような単純な作りなので、囲碁のPRは難しいと思われる。故障中ということは市も承知しているが、このような意見があったことを再度広報担当へ伝える。10月の囲碁まつりでは、記念塔を活用したイベントを予定している。

委員：市のホームページに囲碁のまちということアピールするものがまったくない。(公財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団とのリンクがはられているだけである。市のトップページは開催間近のイベントが掲載されるようなデザインだが、常に囲碁のまちひらつかという情報を出してもらえないか広報担当へ働きかけている。

委員長：平塚の囲碁の取り組みがテレビなどに取り上げられることはあるのか。

事務局：本因坊戦は毎日新聞社がスポンサーのため対局のニュースが全国紙で取り上げられている。NHKでの中継もある。囲碁まつりには報道機関が取材にきている。木谷道場の存在、そこで育ったプロ棋士たちの存在は大きな平塚の文化資源であるので、引き続きPRしていきたい。今年は10月7日に囲碁まつりが開催され、プロ棋士は約80名、参加者は全国から7千人くらいが来場する。また囲碁サミットといって、囲碁振興に力を入れている自治体が参加して開催地を持ち回り毎年実施しているイベントもある。

委員：先日平塚市議会で将棋の振興を求める意見があったようだが。

事務局：七夕まつり開催中に将棋大会が毎年行われている。こちらも盛大に実施されている。平塚市が囲碁振興に投じている予算を見て、将棋にも支援をしてもらえないかという意見があがった。しかし囲碁は木谷道場の存在が振興していくきっかけであり、将棋も同じようにということには簡単にはいかない状況である。

委員長：小学校アウトリーチについては何か詳細は決まっているか。

事務局：実施校の選定が終わり、各校に希望内容をヒアリングした状態。アーティストは未定だが、学校の希望を考慮して調整中である。

(3) 今後の文化振興施策について

資料：④平塚市文化振興指針の施策別取り組み状況

- ・平塚市文化振興指針が対象とする文化の範囲は広く、他部局が所管する事業については各課で進捗管理をしている状況。文化・交流課、(公財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団で実施している文化芸術に特化した事業について主に取り組み状況の確認、意見をいただきたい。
- ・見附台周辺地区土地利用計画の整備方針素案が作成され、パブリックコメントの受付中である。新文化センターを含む事業であるため、文化振興委員会としても関心を持っていただき、御意見のある方は積極的に御意見をいただきたい。

質問・意見等

委員：見附台周辺地区土地利用計画の資料にあるPFIとはなにか。

事務局：プライベートファイナンスイニシアチブの略である。民間業者が平塚市の計画に合うものを提案してきて、平塚市が最も主旨に合うものを選択し、建設してもらうこと。建物を建て運営するのは民間で、平塚市はそれを使用するにあたり相応の費用を何年かに渡り支払う仕組み。簡単に言うと、建設の際に市

側に一度に多額の資金が必要になるわけではなく、分割で負担が生じるようなイメージである。

委員：ソフト面の運営も民間がやるのか。

事務局：そういう方法もある。

委員：神奈川県がつくった花菜ガーデンがその手法で建てられた。

委員：商業施設が入ることを計画しているが、今郊外にも商業施設が分散していて、日産車体跡地の有効活用も課題である。街中に新たに商業施設をつくっても運営が難しいのではないかと。

事務局：市として平塚駅西口の再開発という課題もあるため、このような形になっているかと思う。中途半端なものになるのではないかと懸念もあるが、そういう意味も含めて民間提案を採用していく利点があると考えている。

委員長：平塚駅西口からのアクセスも一緒に示されないと解決しない部分があると思うが、この構想と同時に西口の再開発については何か考えがあるのか。

事務局：今のところ西口に大きな商業施設や歩道を作ることは計画にはない。交通面の改善の必要性は市として認識している。

委員：七夕まつりに関する展示スペースを設けることは素晴らしいと思う。同時に、平塚には宿場町としても有名。東海道を歩く人も多く立ち寄るので、宿場町としてのPRになるものも併設したらよいのではないかと。また、戦争で空襲を受けた町という部分も忘れてはいけないので、それについても関連を持たせて展示したら、復興のための七夕まつりという流れもうまくできるのではないかと。

委員長：戦前の市の姿や資料のようなものは残されているのか。空襲で失われてしまったのか。

委員：ある程度残っている。展示できるものはじゅうぶんあるだろう。軍都という側面も忘れてはならないと思う。崇善公民館はずばらしい建物だが、この計画では取り壊されてしまうのか。いずれにしても、地元住人等と丁寧に意見交換をしていく必要があるだろう。

事務局：崇善公民館の保存については様々な意見があった。使い勝手のよい新しいものが必要だという声も、歴史的価値のある建物として保存すべきだという声も両方ある。それについては長い議論の末、記録として残すという方針になった。また、施設のエントランス部分を多目的なスペースにしてほしい等、この委員会の中での意見は新文化センターに対する要望として検討会議の場で文化・交流課が説明している。

委員：この整備方針に関する地元の説明会に出席してきたが、説明を聞かないとわからないこともあった。緑地は場所が変わるが、今とほぼ同じ面積を確保できるという説明だった。

委員長：情報発信についての意見については何かあるか。

委員：財団事業のイベントニュースは全戸配布になると効果的だと思うが、今はどうか。

事務局：このイベントニュースは湘南ジャーナルに同じものが掲載され、全戸ポスティングになっている。ホームページや紙媒体、いろいろなものを駆使して、市民センターだけでなく美術館等平塚市の文化に係る情報を発信していく必要性を感じている。たわわに折り込まれているイベント一覧は、いろいろなジャンルの市内の文化イベントをまとめている。この一覧は、現在はホームページには掲載されていないのだが、今後情報発信していくひとつの形だろう。

委員長：市民だけでなく、市外の人たちにどのように発信していくかが課題だろう。

委員：外国籍市民のための情報発信という面もある。インターナショナルナパサといって、7言語で生活情報のラジオ放送を実施している。放送後の週末には各言語でホームページに情報がアップされている。

委員長：SCN（湘南ケーブルネットワーク）での発信はどうか。

事務局：予算化の必要があるため常時活用することは難しい。

委員：平塚の美術館は市外の人にもよく知られていて、博物館に来る市外の人が多くは、美術館を目当てにや

ってきたついでに寄っている。朝日新聞などに平塚市美術館の情報が掲載されていた。関連施設を活用した情報発信というのも有効ではないか。

委員：何か調べていたらついでに情報が目に入るとか、もともとそれについてはっきり興味があるわけではない人の注目を集めるには工夫が必要だと思う。好きなものは目的をもって情報を得ようとするが、そうでないことについて知って、足を運んだり鑑賞したりしてもらうには、理解を深めるために様々なアプローチが必要だと痛感している。

委員長：SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などの活用の可能性はどうか。

事務局：facebook を活用している公共ホールなどもあるが、拡散力が大きい一方で、管理方法を定めて運用する必要があるため本市ではまだ導入していない。いろいろなツールを使用して効果的な情報発信を考えていきたい。

5. その他

平成 24 年 11 月 2 日（金）午後 2 時から 平塚市民センター

6. 閉会

以上